



東地中海地域ニュース

トルコ：クリントン米国務長官の訪問

(3月9-10日付現地各紙)

1. 8日、クリントン国務長官はトルコを訪問し、ギュル大統領、エルドアン首相及びババジャン外相と会談した。

2. ババジャン外相との会談後、以下の通り共同宣言を発表した。概要以下。

(1) 両国は、同盟、連帯、戦略的パートナーシップといった両国間の強い絆を再確認し、2006年7月に発表した「戦略ビジョン文書 (Shared Vision and Structured Dialogue document)」に記された平和、民主主義、自由及び繁栄の原則を遂行していくことを確認した。

(2) 両国は以下の分野について緊密な協力関係を継続することを約束した。

- ・ 中東の平和と安定
- ・ エネルギーの安全保障の強化
- ・ 南コーカサスの繁栄 (米国支援によるトルコ・アルメニア関係の正常化、ナゴルノ・カラバフ問題を含む)
- ・ バルカンにおける協力
- ・ 国連関与の下のキプロス問題解決に向けた支援強化
- ・ テロリズム、特に両国共通の敵である PKK 及びアルカイダとの戦いにおける協力強化
- ・ 世界経済危機への対応における協力
- ・ 周辺地域における大量破壊兵器の脅威への対処
- ・ 両国の若い指導者の連携強化

3. エルドアン首相は、米国務省が発表した人権に関する年次報告において、トルコ政府がジャーナリストに対する訴訟を起こし、メディア関連企業への圧力を与えるなどしていると記述されたことについて、クリントン国務長官に対して説明を求めた。クリントン長官は、批判を有する人間がそれを発言できないことを憂慮していること、だが、トルコを概観したとき、表現の自由、信教の自由について、より多くの前進が可能であると考えていると返答した。